総合的な探究の時間

「総合的な探究の時間」は、各校において育成を目指す資質・能力や学校の特色によってその目標が決まるため、この時間の教育活動が創意工夫に満ちた豊かなものになるよう、組織的な授業改善を進めているところである。特に高等学校では、生徒の実情や地域から期待される役割などが非常に多様で、総合的な探究の時間において育成を目指すべき資質・能力がその高等学校のミッションを体現するものであり、学校全体で教職員が連携してその実現に向かっていくことが必要である。その中で県立高校改革実施計画における教育課程研究開発校が、「総合的な探究の時間」に係る研究(令和４年度～令和６年度)の指定校として11校指定された。全般的な研究として、市ケ尾、横浜清陵、藤沢西、秦野総合、大和、津久井の６校が、ＳＤＧｓをテーマとした展開に係る研究として、川崎、舞岡、横須賀南、山北、有馬の５校が研究を行っている。どの学校においても組織的な取組として、「総合的な探究の時間」をカリキュラム・マネジメントの中核として進めていくために、各教科・科目等との関わりを意識しながら、学年・教科を跨いだ学校全体での研究が進んでいる。

「総合的な探究の時間」については、教育課程研究会の研究推進委員を選出せず、県立高校指定校事業での取組で対応することとなっている。指定校事業開始初年度(平成31年度)から「研究報告」を作成し、教育課程研究会の研究報告に掲載している。

今年度は、各指定校が新たな指定期間(令和４年度～令和６年度)の初年度として、研究のねらいである「探究のプロセスによる学習過程を実現するための適切な指導の在り方、探究的な学習の指導力向上」について、それぞれのテーマを設定し、研究に真摯に取り組んできた。公開研究授業や研究協議の中で特に取組の重要性が挙がったのは、「社会課題を自分事として捉えるための手立て」であり、指定校の11校において、様々な取組が実践された。今回は、２校(秦野総合、川崎)に関する取組内容について掲載する。

以下に２校の単元指導計画の一部と、両校の工夫についてまとめた。

１　研究のテーマ

(1)　研究テーマ

「総合的な探究の時間」の組織的な取組

(2)　研究のねらい

「総合的な探究の時間」において求められる探究のプロセスによる学習過程を実現するための適切な指導の在り方、探究的な学習の指導力向上について研究する。

２　実践事例

(1)　秦野総合高等学校(全般的な研究)

① **教育課程表上の名称**：総合的な探究の時間

② **総合的な探究の時間の目標(学校としての目標)**：高齢社会の進行、政治や経済のグローバル化の進展、絶え間ない技術革新による生活環境の変化等を踏まえ、持続可能な社会の構築のために、地域・国家・世界に関わる課題を主体的に探究し、他者と協働しながら積極的に解決しようとする態度・能力を育成する。

③ **２年次の探究課題**：「身の回りのものの未来」

自分の興味のある事柄の「未来」について、あらゆる情報を収集し、内容を整理する。整理した情報(題材)について、自らの視点から分析し、論理的に探究の結果をまとめる。

④ **単元の評価規準**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
探究の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技術を身に付け、地域や社会の課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	地域や社会の課題と自己の関わりから問いを見いだし、自ら課題をたて、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、他者の意見を尊重しつつ、新たに価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を身に付けている。

⑤ 単元の指導と評価の計画（全12時間）

次	時	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1	1 ～ 2	課題設定 ・系列に分かれ、各系列内でテーマを設定し、調べ学習などを通して問いを見いだす。 ・テーマにそって課題を探究し、社会的な意義や価値を考えて設定する。 ・課題についての解決方法を考える。 ・課題を解決するための手立てについて計画する。	○	○		・行動観察 ・探究学習用教材
2	3 ～ 6	情報収集 ・計画に基づき、観察や、実験、調べ学習、調査（活動）、文献やインターネットを利用したデータ収集を実施する。 ・課題解決のためのデータとして妥当なものであるか確認し、不十分な場合は調べ直しを行う。 ・中間発表を系列内で実施する。		○	○	・探究学習用教材 ・中間発表
3	7 ～ 10	整理・分析 ・課題解決のために観察、実験、調査（活動）、文献やインターネットを利用し、収集したデータを整理・分析し、考察する。		○		・探究学習用教材
4	11 ～ 12	まとめ・表現 ・研究をまとめ、レポートを作成する。 ・系列内で発表し、相互評価する。 ・相互評価を基に、まとめ直し、レポートを修正する。 ・発表用資料（ポスター・スライド等）を作成し、２年次の中で最終発表会を実施する。 ・学習成果のまとめと１年間の学習を振り返る。	○		○	・行動観察 ・発表 ・ポスター ・スライド

⑥ 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

【学校の視点から】

探究する過程において、必要な情報を収集し、自らの意見を持ちながら積極的に解決しようとする態度を育成できるような指導をする。他者との意見交換において、考察した内容を共有し、新たに得た情報を踏まえて、さらに考察させる。最終的に、学習の振り返りを行い、探究の過程で得た知識や能力について考え、自己実現や進路の決定にいかしていく。

【教育課程研究会担当の視点から】

○［単元を通した段階的かつ継続的な指導］

生徒が立てる問いやその問いに対する手立てが表面的な課題意識に留まってしまうことが難しさとして挙げられた。生徒が主体的に学習に取り組み、課題の解決に向けて深く思考するためには、個々に設定したテーマを「自分事」として捉えさせることが不可欠である。また、課題解決のための手立ての計画立案や発表に向けた取組をより充実させるためには、単元を通した段階的かつ継続的な指導が必要である。

○［ピア・フィードバック］

「まとめ・表現」では、単元指導において「自分事として捉えた生徒自身の意見や探究の内容が、他者とのやり取りの中でいかに推敲されるか」ということが求められる。具体的な指導の一例としては、生徒が立てた問いや課題解決の手立てに対して、相互に評価を行う「ピア・フィードバック」が考えられる。ペアやグループの小集団において発表の機会を増やし、生徒が他者を意識して内容を伝え、自身の発表内容に対する反応があることで、自身が立てた問いや手立てについてより深い考察を与えることが期待される。その際には話し手だけではなく、聞き手の指導もあわせて必要となる。どのような点に気を付けながら、話し手の発表内容を聞くかを示したチェックリストを作成する、もしくは、話し手の

発表に対してどのように質問するかを具体的に教示する等、教員による支援や指導の工夫があるとよいだろう。

○[教科等横断的に課題解決を図ることによる深い学び]

総合的な探究の時間においては教科等横断的な学びを通じて探究を深めていくことが求められている。例えば、獲得した知識・技能を数学や理科等において習得した思考力・判断力を用いてデータ収集や分析・活用を行い、国語や外国語等で身に付けた表現力を小論文の執筆やプレゼンテーションにいかしながら、教科横断的に課題解決を図ることにより深い学びを促すことが考えられる。

○[単元における生徒の変容の見取り]

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校総合的な探究の時間』によると、「まとめ・表現」の「思考力・判断力・表現力」では、「整理・分析した結果や自分の考えをまとめたり他者に伝えたりすること，振り返ることで対象や自分自身に対する理解が深まることなどが期待されている」(文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター　2021)とあり、その単元における取組が「知識・技能」の習得に留まらず、いかに生徒の「思考力・判断力・表現力」が深まる指導になっているかが大切であり、自己評価や相互評価の状況を含めた生徒の振り返りの記述等から、単元における生徒の変容を見取れるようにすることが求められる。

(2) 川崎高等学校(ＳＤＧｓをテーマとした展開に係る研究)

① 教育課程表上の名称：総合的な探究の時間

② 総合的な探究の時間の目標(学校としての目標)：自己の在り方生き方を社会との関わりの中で考え、自己理解・他者理解・社会認識を深める学習活動や、興味関心・進路等に応じた探究活動、及び様々な学習スキルの習得を通じ、知の総合化と知識・技能の深化を図るとともに、人間関係能力を高め、社会が直面する課題を探究し、社会への参画を促すことを学習のねらいとする。

③ １年次の探究課題：「ＳＤＧｓとは何か知ろう」

ＳＤＧｓの意味を理解し自己理解・他者理解を深め、自己の在り方生き方について考える中で課題意識を養うとともに、基本的な討論の方法や情報の収集などの探究の手法について学ぶ。

④ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
探究の過程を通して、課題の発見と解決に必要な知識・技能を身に付け、社会に関する基本的な概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。	社会で見られる問題を自己との関わりから捉えて、課題について情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。	探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、新たな価値を創造し、より良い社会を実現しようとする態度を身に付けている。

⑤ 単元の指導と評価の計画(全９時間)

次	時	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1	1 〜 2	課題設定 ・ＳＤＧｓの達成すべき17の目標について学ぶ。 ・自己の興味・関心のある新聞記事を選び、ＳＤＧｓとの関連について考える。			○	・行動観察
2	3 〜 6	情報収集・整理・分析 ・選んだ新聞記事とＳＤＧｓの関連について、情報を収集する。収集した情報を整理・分析し、考察する。 ・配付された資料（⑦参考資料）を参考にスライドにまとめる。		 ○	○	・行動観察 ・スライド
3	7 〜 9	まとめ・発表 ・根拠となる正確な情報を示しながら、作成したスライドを活用し発表する。 ・発表を聞いて、相互評価をし、自分なりの考えや疑問に感じたことを書く。	○	○		・発表 ・スライド ・ワークシート

⑥ 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

【学校の視点から】

新聞記事を活用することにより、身近な事柄からＳＤＧｓについて意識させる工夫をした。生徒自身が興味・関心のある記事を選ぶことで、主体的に情報を収集し、考察することができると考えた。また、テーマが多様になるため、どの発表も新鮮さがあり、聞く側も集中できていた。質問できる時間をしっかり確保することや、質問しやすい環境(教師の声掛けや、グループで質問するなど)を作り出すことで、さらに主体的・対話的で深い学びにつながると感じた。

しかし、多くの生徒は発表の際に使用したワークシートに個人の感想のみを書いており、疑問に思ったことや質問をしたいことについては、ほとんど意見が出ることがなかった。今後の課題として、様式等の工夫が必要であると感じた。今回は、年次(クラス単位)での発表であったが、今後は年次全体や他年次と行うことにより、更に、ＳＤＧｓへの関心が高まることや、角度を変えて探究していくことができると考える。

【教育課程研究会担当の視点から】

○[主体的な学習]

新聞記事を活用することにより、生徒自身が興味を持っている身近な事柄を入口にして、ＳＤＧｓに関連付けて生徒が主体的に学習に取り組むことができる。

○[発表や対話の時間の確保]

発表の機会をできるだけ多く設置することが望ましい。ただし、クラス全体への発表だと時間をとってしまうので、例えば、説明と質疑応答を組み込んだグループ内での発表やペアワークによる対話でもよい。生徒が自分の考えを発言することで自身の考えが深まり、他者の考えを聴くことで視野が広がるため、主体的・対話的で深い学びにつながる。

○[情報リテラシーに関する指導]

スライド作成やグラフ作成については、一定程度時間を確保して指導することが望ましい。その後、探究学習のプロセスを何度か経験することで、生徒は情報リテラシーを身に付けることができる。また、参考資料をスライドに載せる際のルールなども指導する必要がある。

○[ファシリテーターの役割]

教員はファシリテーターとして教室をコントロールする。発表毎に必ず質疑応答の時間を確保し、生徒の学習活動を教員が見守るという意識を作ることが大切となる。

○[学校全体の体制づくり]

学年や年次の教員への指示を明確にし、指示書のようなものを作成すると、どの教員が担当しても同じように対応できる。また、取組が学年や年次ごとに大きく変わることがないよう、学校全体の取組として位置付けて、継続していくことが大切である。

○[外部の教育資源の活用]

この授業計画では新聞記事を活用しているが、他の教育資源の活用も検討するとよい。動画や統計データを活用できるので、学習活動の幅を広げることが可能である。

・「かながわ気候変動 WEB」（神奈川県気候変動適応センター）
https://www.pref.kanagawa.jp/osirase/0323/climate_change/pdf/r2_manual.pdf
(2023 年１月 13 日取得)

・「高校における健康・未病学習」
https://www.pref.kanagawa.jp/docs/cz6/kodomo/koukou.html
(2023 年１月 13 日取得)

・「神奈川県総合防災センター」
https://www.pref.kanagawa.jp/docs/zn2/bousaicenter/homepage.html
(2023 年１月 13 日取得)

・「神奈川県自然環境保全センター」
https://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4y/top.html
(2023 年１月 13 日取得)

⑦参考資料（情報収集・整理・分析で使用した教材）

SDGsの発表の流れについて

2022.9.21
配布資料

【テーマ】新聞記事からSDGsについて考える

【方法】
・新聞記事から、気になる記事をピックアップする。（記事の写真を撮る。）
・裏面の例を参考にしながら、新聞記事からSDGsに関するスライドを作成する。
以下の内容については必ず記載すること。

① タイトル
② ID氏名
③ 記事の要約（日付と新聞社名を記載）
④ この記事と関連付けたSDGs項目
⑤ そこから考えたこと（現状、提案、なぜこうなったのか？など。さらに記事を深読みも可）
⑥ まとめ

＊裏面のスライドはあくまで例です。イラストやグラフなど、見やすいように作成しましょう！

【発表】１人３分程度

＜日程＞

日時	活動内容	備考
９月21日(水)90分授業	SDGsを知ろう、クイズ、発表準備	
９月28日(水)90分授業	発表準備	
10月 ５日(水)90分授業	発表準備	地域貢献デーの後に実施
10月19日(水)40分授業	【発表①】	特別時間割
11月 ２日(水)90分授業	【発表②】	

飼い犬は高齢者の元気を保つ？
×
SDG s

ID　　氏名〇〇　〇〇

1

新聞の要約〈2022年〇月〇日（〇）〇〇新聞〉

- 犬を飼っている人や過去に飼ったことがある人は、飼ったことがない人に比べ、**介護が必要だったり、亡くなったりするリスクが半減**
- 理由は、飼い犬の散歩や飼い主たちとの交流が、健康維持に役立っているのでは！
- 猫を飼っている人の調査ではリスクの低減する効果はみられなかった・・・・。が、飼い猫の心理的な効果を指摘する他の研究もあり、猫との触れ合いが健康によい可能性は否定されていない。

2

SDGsとの関連

すべての人に健康と福祉を

と関連して、
何か考えれないだろうか？？

3

現在は医師不足が問題となっている…

- 日本は、人口414人に１人の医師がいる計算
- 世界では、数万人に１人の医師の国が多くある

犬、猫と触れ合い、介護や死亡リスクを低減させれば、良い方向に進むのでは？

4

提案！

保護犬・猫と触れ合って健康に！

5

提案！　保護犬・猫と触れ合って健康に！

＜提案した理由＞

・2018年度、殺処分は犬7,687頭、猫30,757頭

・犬猫を飼うことや、飼えない人でも触れ合う場を様々な場所で作ることで、少しでも健康につながるのではないか！

高齢者にも犬猫にとっても幸せ☆

6

しかし、課題も…

- 飼うためにかかる費用は？
- 触れ合う場所の提供はどのようにするのか？誰が？場は？

7

課題解決のために、**社会**ができること

- 〇〇〇～を実施する
- 〇〇〇という制度をつくる

課題解決のために、**私たち**ができること

- 〇〇〇～をしてみる
- 普段から、〇〇〇をしてみる

8

３　成果と課題

(1) 成果

・探究のプロセスによる学習過程を実現するための授業計画及び授業実践が全ての指定校で行われていた。
・公開研究授業を対面で行い協議することを通して、成果や課題を共有し、自校の授業を振り返り、授業改善のきっかけとなった。
・生徒自身が興味を持っている身近な事柄を入口にして、ＳＤＧｓに関連付けて考察をし、情報取集や整理、分析をすることで、探究のプロセスに沿った学習に主体的に取り組むことができた。
・生徒が主体的に粘り強く探究学習に取り組むことができるように、教員がファシリテーターとして生徒の学習活動を見守る体制ができていた。
・他者の発表を相互評価し、自分なりの考えをワークシートに記入することで、他者の意見を尊重できる授業進行となっていた。

(2) 課題

・各学校において主担当が授業計画を行い、ワーキングチームやプロジェクトチームを中心に授業の指導のポイントを他の教員に伝えているが、探究的な学習に対する理解の差が原因となり、教員ごとに指導に差が出てしまう。管理職も含め、学校全体で総合的な探究の時間に対して指導体制の充実を前向きに検討していく必要がある。
・生徒に情報リテラシーを身に付けさせるには、スライド作成やグラフ作成について、一定程度時間を確保して指導することが必要である。
・参考資料をスライドに載せる際のルールなど、著作権を意識した整理・まとめができるよう指導する必要がある。
・グループ内での発表やペアワークによる対話などの発表の機会を頻繁に組み入れて、生徒同士の対話をより深める必要がある。
・外部団体へのインタビューやウェブで得られる様々な教育資源を活用して、学習活動の幅を広げることが必要である。

引用文献

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター 2021 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料高等学校総合的な探究の時間』 東洋館出版社 p. 46